

令和2年度 学校経営計画報告

東京都立晴海総合高等学校

校長 玉川 弘文

I 今年度の取り組みと自己評価

- A：成果があったもの B：取り組んだもの
 C：実施したが新型コロナウイルス感染予防等のため成果を出すまでにはいたらなかったもの
 D：新型コロナウイルス感染予防等のため実施できなかったもの

| 達成のための方策の結果 | 達成数値 | 評価 |
|---|-------------|----|
| 【学校経営】 | | |
| 1 主幹会議を月2回程度開催し、本校の課題と解決策を確認の上、企画調整会議や委員会等に反映させた。 | 23回 | A |
| 2 企画調整会議を組織運営の中核に位置付け、教職員の学校運営参画意識を高め、年次・分掌・担任等縦横斜めの関係を密にし、情報交換を確実に行った。 | 33回 | B |
| 3 新たな学校評価（協議）委員を迎え、本校の現況を分析することで、学校運営、学習指導、進路指導、生活指導すべての教育活動を見直した。 | 3回 | A |
| 4 仕事のムダムラを検証することで業務の効率化を進め、教職員のライフワークバランスの実現を図った。 | | B |
| 5 総合学科高校としての本校の教育理念を十分に理解し、それに基づいた学校運営を進めるため、研修会や分掌部会・年次会・教科会をOJTの中心に位置付けた。 ・転入者オリエンテーション：1回 ・研究部主催研修会：2回 ・相談部主催2回（総合型選抜・学校推薦型選抜、模試分析） | 校内研修5回 | B |
| 6 教務部主任を中心に教育課程委員会等で、高大接続改革及び新学習指導要領に対応できる教育課程の編成、教科及び科目のルーブリックの作成及び評価方法を3月に完成する予定。 | | B |
| 7 英語の4技能を高めるため、全生徒が外部試験による英語力判定及び音声・リーディングソフトを活用し全生徒の使える英語力を高める予定であったが、実現は来年度からとなった。 | | C |
| 8 系列の科目及び学校設定科目が魅力的で受講したい科目が見直すことは十分できなかった。 | | C |
| 9 いじめなどの兆候の早期発見・早期対応、体罰や暴力・暴言等の根絶に向け生徒情報を共有し、命の大切さを指導し、生徒部主任・管理職への報告・相談体制を整え、高等学校生活指導指針に基づく指導を徹底した。 | | B |
| 10 全教科で教科主任を中心に「確かな学力」の育成、教科の抱える課題の解決等に組織的に取り組むことは十分できなかった。 | | C |
| 11 教員の資質を高めるために大職員室・各教科職員室のクリーンデスクを徹底、個人情報紛失防止、入選業務などで服務事故をゼロにできた。 | | B |
| 12 総合学科高校としての特色を十分発揮するために予算委員会を機能させ、計画・組織的に予算編成を行った。一般需要費のセンター契約執行率を60%以上にした。 | 63% | A |
| 13 家庭状況・督促状況の連絡を密に行い、授業料及び諸費用の滞納を組織的に防止した。 | | B |
| 14 節電・節水等エネルギーの節約を工夫し、削減を推進した。 | | B |
| 【学習指導】 | | |
| 1 「学力スタンダード」をもとに、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図り、学力の定着や学びの姿勢を育成することで、保護者の信頼に応えられるよう組織的に取り組んだ。 | | B |
| 2 発問の工夫と振り返りを行うことで、「深い学び」と「探究」の授業を実践する。1回以上は公開し全教員の相互授業参観をとおして、教科指導・授業技術の改善を推進した。 | 220回 不読率 | B |
| 3 豊かな心の育成を目指し、読書活動の充実を図り、言語活動を推進した。 | 2.7% | A |
| 4 定時にはじめ、定時に終了する授業を行った。生徒は、開始前に授業準備を行った。 | | B |

| 達成のための方策の結果 | 達成数値 | 評価 |
|--|------------|---|
| <p>5 課題・小テストの実施、自宅(授業前の自学・放課後)学習に取り組ませ、主体性を育てながら「学習習慣の定着」を図る。新設するチューター制度を活用し、自学自習と自宅(授業前の自学・放課後)学習とを支援した。</p> <p>6 オンライン学習を活用し、反転学習をすることで自学自習の定着と学力向上を図った。</p> <p>7 年2回の「生徒による授業評価」を基に授業改善に努め、全教員がICT等を活用したわかりやすい授業を展開し、主体的・対話的で深い学びを追究する。</p> <p>8 外部機関との連携は図れなかったが、「課題研究」及び「プレ課題研究」に対する教員の意識と指導力を高め、生徒の読書量を増やす指導、コミュニケーション能力を高める指導、深く研究する方法等を指導し、レベルの高い探究活動ができるよう支援をした。また、仮説の立て方・指導方法の教員研修は実施できなかった。</p> <p>9 生涯を通じてスポーツに親しむ態度・意識を高め、そのための基礎体力を向上させる授業を展開した。 ・体力テストが実施できなかったため、体力合計点を毎年1ポイント以上アップさせ、東京都平均に近付けることはできなかった。 ・開催が延期となった東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、オリパラ委員会・各教科及び各年次連携の下、地域連携をも視野に入れ、組織的・計画的に具体化し実践した。</p> <p>10 本校の系列を支える科目、特色ある学校設定科目の授業到達度の確認と、さらなる発展的学習や進路実現につながる各種資格・検定や大会(コンクール)に積極的に取り組んだ。</p> | 動画 330本 | B B B C B B |
| <p>【生活指導】</p> <p>1 信頼される言葉遣いを心がけ、人権尊重の理念「人権を相互に尊重」を広く定着させた。</p> <p>2 定時の登校や学習時間等のタイムマネジメントスキルを向上させながら、晴海生としての誇りをもたせた。</p> <p>3 教職員の共通理解の下、日常の遅刻防止・身だしなみ・挨拶の指導に加え、「遅刻・身だしなみ週間」を年5回行い、「自己責任能力」の育成を図った。</p> <p>4 いじめやネットトラブル等の生徒の問題行動に対し未然防止、早期発見・早期対応を組織的に行った。</p> <p>5 学校・家庭・地域社会との緊密な連携の下、公共の場や交通機関でのルール・マナーを守れるよう、生徒の健全育成を進めた。</p> <p>6 式典や全校集会等の節目の機会に制服の正装着用等を徹底し、はじめのある態度を育成した。</p> | | B B B B B B |
| <p>【進路指導】</p> <p>1 3年次担任、1・2年次及び教科の代表、部活動顧問による模試分析会を行い、生徒の受験先・受験形態と学力を把握し相談や進路実現計画に活かした。また、模試の結果と、授業の定着を図る定期考査や小テストとの乖離を検証することで、授業改善や学力向上の一助とした。</p> <p>2 相談室の資料や入室しやすいレイアウト等を工夫して活用度を高めた。</p> <p>3 相談部が主導となり長期休業日中・放課後等に、基礎学力向上、応用力養成を図る講習・補習を主催し進路実現を推進した。</p> <p>4 受験科目の定期考査は共通問題で行い、記述式問題を取り入れ、思考力・判断力・表現力等を育成した。</p> <p>5 多様な大学入試制度を調査し、受験生が的確な大学選択ができることで、信頼される進路指導を行った。</p> <p>6 入学後も総合学科の仕組みや本校のルールを丁寧に分かるまで説明し、主体的な進路実現を図った。</p> <p>7 外部機関と連携し、大学説明会の実施・課題研究の支援を行い、進路を考える幅を広げた。</p> <p>8 「産業社会と人間」と「課題研究」の取り組みが将来設計・進路実現につながっていることが理解できるように、授業の在り方や内容を再考した。</p> <p>9 相談活動は、全校体制で取り組み、生徒一人一人を支援し、進路目標を明確にさせた。</p> | 進路分析会各年次2回 | B B B B B B B B B |

| 達成のための方策の結果 | 達成数値 | 評価 |
|---|---|--|
| <p>10 受験科目は、定期考査に大学入試問題や記述式問題を取り入れ、定期考査と大学入試問題と乖離を解消し、高大接続改革に適切に対応した。</p> <p>11 トビタテ留学 JAPAN の募集は実施されたが、「コロナ禍で留学を不安視する傾向が見られ希望者がいなかった。</p> <p>12 総合型選抜、学校推薦型選抜受験希望者に対し、全教員が個別指導する体制を強化し、昨年比合格率がそれぞれ次のように上昇した。</p> | <p>総合型選抜 56%→71% 学校推薦型選抜 33%→38%</p> | <p>B D A</p> |
| <p>【特別活動・部活動】</p> <p>1 教員の適切な指導助言等で、生徒の自主性を育て、学校行事への参加意識を高める予定であったが、体育的行事と文化的行事は中止となったため、生徒と共につくり上げる体育祭・晴海祭は次年度への引継ぎ体制を整え、指導を行った。</p> <p>2 限られた実施時期において、部活動の活性化を図り、運動部系では生徒の体力向上につなげた。 1年次生全員部活動加入を徹底し、活動が魅力あるものとなるように、教員が適切な指導力を発揮した。 1年間に渡ってコンスタントに活動し、達成感・成就感が得られるものとした。</p> <p>3 生徒会・委員会活動の活性化は十分できず、地域連携・ボランティア活動の推進はできなかった。</p> <p>【開かれた学校づくり・地域貢献】</p> <p>1 地域の特性を活かしながら SDG s の視点を取り入れた学校主催の教科「人間と社会」の「奉仕」活動・職場訪問、地域主催のボランティア活動や企業主催のインターンシップに参加することはできなかった。 ボランティア学習のみ3月に実施した。</p> <p>2 学校活動の理解と協力を得るための年次通信等を各年4回以上発行し、家庭との連携を密にした。</p> <p>3 保育園、幼稚園、小学校、中学校、児童館及び高齢者施設等との連携はできなかった。</p> <p>4 課題研究を活用し、総合学科として自己の進路意識をより高く持たせ、第一志望に入るための支援を全教員で実施することはできたが、連携大学との情報共有はできなかった。</p> | <p>1年次 9回 2年次 7回 3年次 4回</p> | <p>C C C C B D C</p> |
| <p>【健康づくり】</p> <p>1 生徒の実態は共有できたが、「学校保健委員会」を年2回実施できなかった。</p> <p>2 スクールカウンセラーの新入生全員面接の実施や教員向け研修の実施など、スクールカウンセラーを中心とした生徒の心身の健康管理を、生徒部及び年次を軸とし組織的に取り組んだ。</p> <p>3 発達障害等の特別な支援を必要とする生徒に対応するため、特別支援教育コーディネーターの育成・活用は十分ではなかったが、心配な生徒への個別支援会議を行うことはできた。 ・特別支援教育コーディネーター及びスクールカウンセラーによる研修は3回以上実施できなかった。 ・障がいのある生徒に対して、健常者としての配慮を全教職員及び生徒が行い、共生社会を実現した。</p> <p>4 全校生徒による年3回の美化デー、1年次生が11月に実施するクリーン作戦や環境美化委員会の活動を通して、地域や学校の環境衛生の維持に努めた。</p> <p>5 保健だよりを年8回以上発行し、生徒の健康に対する関心を高めた。</p> <p>6 食育を学校保健計画との関連を図りながら、全校的な取り組みとして推進した。</p> | | <p>C B C B B B</p> |
| <p>【防災教育】</p> <p>1 総務部を中心に地域・諸機関と連携し、年5回の防災訓練に組織的に取り組んだ。</p> <p>重点目標と方策</p> | <p>4回</p> | <p>B</p> |

| 達成のための方策の結果 | 達成数値 | 評価 |
|---|--------------------------------|--|
| <p>【学校経営】</p> <p>1 総合学科の教育理念、本校の教育方針、特色ある教育活動の成果等を積極的に広報し、本校を第一志望とする中学生・保護者をさらに増やした。入学者選抜応募倍率（学力検査）1.5倍以上（0.99倍）</p> <p>【学習活動・進路指導】</p> <p>1 新型コロナウイルス感染対策により、年間授業計画や年間行事計画などすべての教育活動を見直し、臨時休業中や休業明けの授業保障を確実にいき、学力向上と進路指導に支障のないようにした。</p> <p>2 進路第1・2志望合格達成率： 94.0% ・進路決定率：100%</p> <p>3 測定し易い力を育成した。 <ul style="list-style-type: none"> ・「学力スタンダード」を「応用」レベルに設定し、「発展」レベルを目指した。 ・基礎的、基本的学力定着の徹底及び応用力を育成指導 ・始業前、放課後、長期休業日中の自主的な学習活動を含む学習習慣確立に向け、組織的に指導 ・組織的な補習・講習を実施するとともに、個別指導をさらに推進 </p> <p>4 自己の特性を深く理解し活用する方法を身に付けるキャリア教育を推進し、測定し難い力を育成した。 <ul style="list-style-type: none"> ・「産業社会と人間」等で進路に対する明確な目的意識を構築。（将来設計能力・情報活用能力等の育成） ・「科目選択」による学びに対する強い動機付け及び、自由な個人裁量に伴う責任を果たすことでの「自己責任能力」（主体的に学ぶ力・意思決定能力・判断力等）を育成。 ・生徒の学びを支えるための「ブレ課題研究」「課題研究」に対する教員の指導力向上。（思考力、判断力、表現力等の育成） </p> <p>5 高い目的意識をもった進路実現 <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアカウンセラーを中心とし関係機関が連携し全校体制で「相談活動」を十分行えなかった。 ・相談部を中心に、受験形態〔総合型選抜（現A0入試）学校推薦型選抜（現推薦入試）一般受験等〕別の戦略的な取り組みと校内研修会を開催できた。 ・「課題研究」を活かし、第一志望へ進めるような進路開拓を十分行えなかった。 </p> | <p>推薦倍率 2.15 学力倍率 1.18</p> | <p>B</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>C</p> |
| <p>【募集・広報活動】</p> <p>1 新入生・生徒・保護者等のアンケートを分析し、受検生のニーズ（時代性）に合った募集・広報活動の工夫と改善を図った。</p> <p>2 総務部主導で全教員による、中学校訪問、学校外の説明会等を行った。生徒とともに学校見学会・説明会を作り上げ、生徒の自主性を育てながら帰属意識を高めた。</p> <p>3 ホームページは、タイムリーな掲載を心掛け150回以上更新した。</p> <p>4 中学校、学習塾、中央区等に学校活動や進学実績の提供と情報交換を確実にいった。</p> <p>5 受検生目線での学校紹介の映像を配信・パンフレット制作・学校説明会等を行った。</p> <p>6 本校の教育活動を幅広く広報するために、今年度から学習塾対象の説明会を年2回以上実施と年次通信を年4回以上、相談部だよりを年11回以上発行した。</p> <p>7 学校見学会・説明会には、全教員が2回以上参加できなかった。</p> <p>8 全教員が5回以上、中学校、中学校PTA、塾、区等主催の説明会、出前授業等に参加できなかった。</p> <p>9 体験授業は実施できたが、授業公開、体験授業、部活動体験等は実施できなかった。</p> | <p>507回</p> | <p>B</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>C</p> <p>C</p> <p>C</p> |

| 達成のための方策の結果 | 達成数値 | 評価 |
|---|------|---|
| 【数値目標】 1 相互授業参観 200回以上→220回 2 不読者率3%以内→2.7% 蔵書貸し出し冊数：13,000冊→7,550冊 3 週当たりの家庭学習等時間（分）学校休業後から実施する。 1年次生1日平日 50分以上 休日60分以上 全体の70%が達成(50分×5日+60分×2日=370分)→51.1%が実施 2年次生1日平日 60分以上 休日75分以上 全体の70%が達成(60分×5日+75分×2日=450分)→34.1%が実施 3年次生1日平日100分以上 休日120分以上 全体の80%が達成(100分×5日+120分×2日=740分)→26.5%が実施 4 資格・検定及びコンクール 〔語学〕英語検定2級 20名(13名)→26名 英語検定準2級 93名(37名)→42名 〔商業〕簿記(全商)2級以上：10名→22名 全商ビジネス文書検定2級以上：10名→10名 〔情報〕ITパスポート：1名(1名)→0名 〔家庭〕保育検定2級以上：2名→22名 〔美術〕全国レベル美術展入賞：8名(8名)→4名 5 遅刻回数：遅刻者6人以下/1日(8名)→6.2名 6 進路第1・2志望合格達成率 88.0%(85.0%)→94% 進路決定率95%(93.1%)→100% 7 長期休業中(夏・冬)講習：68講座、延べ1,300名(68講座、延べ1,293名)→23講座 8 国公立大学合格者 2名(2名)→1名 早慶上理大・GMARCH以上の合格者数 18名(15名)→18名 9 晴海祭の来場者数：4,000名(3,589名)→未実施 10 1年生部活動加入率 100%→100% 全校生徒部活動加入率 95%(93%)→93% 11 地域でのボランティア活動・連携活動：12回以上→未実施 12 異校種・異年齢交流：17回(17回)→未実施 | | A A C C A A A B C A B B A A A D B B D A B D D |

II 来年度以降の課題と具体的な手だて

| |
|--|
| 【1 高い目的意識を持った進路実現への指導力向上】 (1) 教育活動全体を通して、卒業後の進路を意識させ、行動させる。 (2) 自身の問題意識と進路活動をつなげ、教科の学習を深めさせ、課題研究を活用するよう、HR、年次集会を通して指導支援をする。 (3) 進学指導や就職の動向がわかるような研究会等へ参加し、新しい情報を常に共有する。 (4) 拡大相談部会の定期的実施。 (5) 低学年対象の進路イベントを生徒に積極的に紹介するとともに、高大連携の教育活動に参加する機会を拡大する。 (6) 進路希望を早期に明確化させる(系列選択をする1年次9月から意識させることが理想)ため、1年次7月までに模擬授業を実施し終える。 |
| 【2 「確かな学力」の育成のための組織づくり】 (1) 科会で、成績不振者を把握し、全体で指導する体制を作る。 (2) 週末課題の実施 (3) 英検全員受験に向けた、学校としての取り組み(英語科として支援体制の確立) (4) 部活動指導等に配慮しながら、放課後講座や冬期講習会を実施する。 |

| |
|---|
| <p>【3 新カリに向けた系列の科目及び学校設定科目の見直し】</p> <p>(1) 新学習指導要領を踏まえ、魅力ある講座を設定する。</p> <p>(2) 特別専任講師の配置を見直し、他校にない新たな魅力ある学校設定科目の設置を検討する。</p> <p>(3) 掲げる目標を教員間で共有し、3か年を見通した教育活動の再配置を行う。</p> |
| <p>【4 「課題研究」をレベルの高を探究活動とするための方策】</p> <p>(1) SDGs など、社会問題に意識が行くよう、HR や授業を活用して、身近な問題へ意識を持たせる。</p> <p>(2) 新聞や図書館貸出本からテーマを探らせる時間を十分与える。</p> <p>(3) 外部の連携を充実させ、専門性を高めることにより生徒の仮説力を高める。</p> <p>(4) 生徒相互の評価や助言を活用しあう研究活動を実施できる場の醸成を図る。</p> <p>(5) 課題研究への着手を早めるとともに、評価と指導の一体化を教員間で確認する。</p> |
| <p>【5 進路に役立つ資格・検定取得のためのきめ細やかな指導】</p> <p>(1) HR を通した進路情報の提供、年次集会を利用した情報提供、保護者会での情報提供を行う。</p> <p>(2) 英検等の検定の紹介、指導支援を学校全体で行っていく。</p> <p>(3) シラバス・年間授業計画を見直し、授業内で検定取得ができる力をつけさせるような計画を立てる。</p> <p>(4) 補習・補講の充実、日程や申込期限をわかりやすく校内に一覧で掲示する。</p> |
| <p>【6 帰属意識を高めるための、学校行事、部活動、生徒会、委員会の活性化】</p> <p>(1) クラス目標を決め、委員会や生徒会、部活動など、生徒に責任をもって行動させる。</p> <p>(2) クラス内で、各種団体委員が報告できる場を設け、主体的に教育活動に取り組む姿勢を育む。</p> <p>(3) 目標設定からフィードバックまでの流れを生徒自らできるような道筋を立てる。</p> <p>(4) 校内発表の行事において、高めあう人間関係の構築を後押しする。</p> <p>(5) 生徒発案のアイデアを募り、教員との協議を取り入れた学校行事となるようにする。</p> |
| <p>【7 配慮が必要な生徒への個別支援会議の充実】</p> <p>(1) 該当生徒を的確に把握するため保護者と連携し、年次主任を交えた三者（四者）面談など早め早めの対応を行う。</p> <p>(2) スクールカウンセラーや管理職等関係機関と、細やかな連絡報告相談を行い、支援の在り方を検討する。</p> <p>(3) カウンセリング委員会での情報共有を「見える化」し、授業担当者からの情報を集めるよう校内体制を整える。</p> <p>(4) 4月当初に面談週間を設けるなど、相談活動時間を時程に含めて設定する。</p> |
| <p>【8 地域との交流、ボランティア活動の充実】</p> <p>(1) 地域の人々にPRして、展示会等の行事を増やし、交流を推進する。</p> <p>(2) 外部との交流を増やし、社会に開かれた教育課程とする。</p> <p>(3) 地域対象学校評価アンケートを、晴海祭来校者に依頼し、広く声を集める。</p> <p>(4) 防災訓練、人間と社会など地域清掃やボランティア学習を積極的にPRする。</p> |
| <p>【9 効果の高い募集対策・広報活動への組織的取り組み】</p> <p>(1) 全教科で学校設定科目の授業公開を年2回実施するとともに、学校設定科目の内容をHPに掲載する。</p> <p>(2) 塾対象説明会を計画的に早期に実施し、11月の説明会を最大限充実させる。</p> <p>(3) 外部の相談会に依存せず、本校へ足を運んでもらえる企画・行事を検討する。</p> <p>(4) 教員が年3回以上の1日参加や塾訪問を通し、募集活動に意識を高める。</p> <p>(5) 分析結果に基づいた、効果的な中学校・塾回りを増やし、結果の記録をデータベース化する。</p> <p>(6) 募集対策、広報活動のための校内研修、校外研修を増やす。</p> |
| <p>【10 さらになるライフワークバランスへの意識向上】</p> <p>(1) 定時退勤を促すだけでなく、業務内容のムダとムラをなくすことを考える。</p> <p>(2) 詳細な計画の立案、実施、見直しを通して、無断のない業務遂行を目指す</p> <p>(3) 委員会のスリム化を推進し、会議・委員会開催日の計画を職員間で共有する。</p> <p>TEAPRO等の活用を視野に入れた業務軽減を行う。</p> |